

周波数ひっ迫対策技術試験事務 令和3年度事前評価結果

案件名	実施予定期間	評価会での主なコメント	評価点
無線LANシステムの使用周波数帯域の拡張に伴う技術的条件の検討	R3-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無線LANは広く普及しており、将来の周波数不足に備えて帯域拡張の準備を進める必要性が高い。技術的条件の検討を早急に開始することが望ましい。</li> <li>・調査の結果をメーカーなどと共有し逸早く研究開発に生かすことが望まれる。</li> <li>・日本でもAFC同等のシステムを導入するならば、早めにその方針を示すべき。</li> </ul>	4.2
静止衛星向けKa帯地球局の周波数共用技術に関する調査検討	R3-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空機搭載に代表されるESIM運用の周波数拡張は、昨今の短期的な航空機搭乗需要の減少はあるが、潜在的には重要な施策であり、本技術試験事務の必要性は高い。</li> <li>・周波数共用条件の導出のほか、ITUへの入力も重要と思われる。</li> <li>・他の無線システムとの周波数共用を図ることにより、周波数の逼迫状況を解消することが期待できる。</li> </ul>	3.9
マルチベンダー基地局の相互運用性向上のための技術的検討	R3-R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外動向の分析を行い、広く国内事業者と利用者が恩恵を受けることを明示しながら進めて頂きたい。</li> <li>・相互接続性の確保だけでなく、ベンダーが協調して相互運用性を高めることも必要である。</li> <li>・電波の質に影響を与える諸元について、最初に取り組み調査をもとに、優先順位等をつけて効率よく試験を進めてほしい。</li> </ul>	3.4